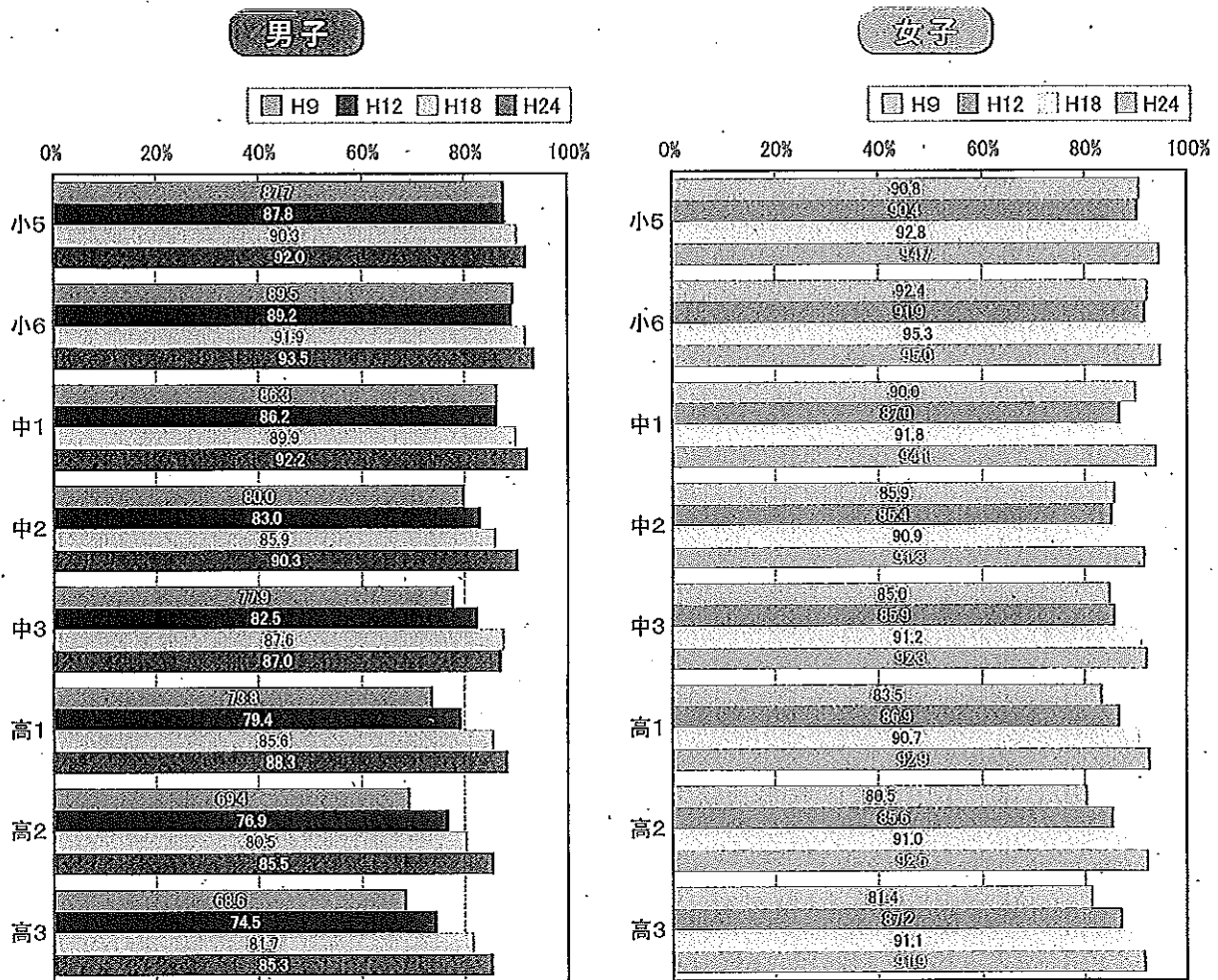


(9) 薬物の使用に対する考え

- 覚せい剤などの薬物は「絶対に使うべきではない」と回答した児童生徒の割合は、平成9年の調査以降男女ともに概ねいずれの学校種・学年においても段階的に高くなった。平成18年の調査結果と比較すると中学校3年生男子、小学校6年生女子を除き、概ねその割合は、高くなった。
- 「1回くらいならかまわない」及び「個人の自由」と回答した児童生徒の割合は、平成9年の調査以降男女ともに概ねいずれの学校種・学年においても段階的に低くなった。

図Ⅱ-4-(9)-2 「絶対に使うべきではない」と回答した児童生徒の割合



出典:文部科学省「平成24年度 薬物等に対する意識調査報告書」